

くん
ちゃん

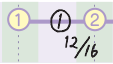
の予防接種プラン例 (2歳まで)



監修：NPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会 2013年4月改訂版予防接種スケジュール

★実際の接種スケジュールは、医師とご相談の上、早めに組みましょう。

実際に接種した日付を表に記入しましょう。



お誕生日 /

▼お子さまの月齢ごとの日付をかいてください▼

1か月 / 2か月 / 3か月 / 4か月 / 5か月 / 6か月 / 7か月 / 8か月 / 9か月 / 10か月 / 11か月 / 1歳 / 1歳6か月 / 2歳

接種種別	ワクチン名	接種時期	接種回数	備考
不活化	B型肝炎	任意	1, 2, 3	
生 (経口)	ロタウイルス (2回接種・3回接種)	任意	1, 2, 3	初回接種は6週目～、2種類のワクチンがあり、それぞれスケジュールが異なります。詳しくは裏面参照。
不活化	ヒブ(Hib)	定期	1, 2, 3, 4	
不活化	小児用肺炎球菌	定期	1, 2, 3, 4	
不活化	四種混合(DPT-IPV)	定期	1, 2, 3, 4	⑤ 二種混合(DT):11歳で追加接種(接種対象11~12歳)
生	BCG	定期	1	集団接種の場合は日程を確認。
不活化	三種混合(DPT)	定期		三種混合(DPT)とポリオの接種が完了していない場合のスケジュールは、医師にご相談ください。
不活化	ポリオ(単独)	定期		
生	麻しん・風しん混合(MR)	定期	1	基本的には1歳になったらすぐに。 ② 小学校入学の前年に追加接種。
生	おたふくかぜ	任意	1	② 確実な免疫をつけるために、3~5年後に追加接種を受けるのが有効です。
生	みずぼうそう(水痘)	任意	1, 2	② 確実な免疫をつけるために、1回目から3か月の間隔をあけて追加接種を受けるのが有効です。
不活化	日本脳炎	定期		めやすは、①② 3歳で2回 ③ 4歳で1回 ④ 9歳で1回
不活化	インフルエンザ	任意		毎年、10月から11月ごろに接種しましょう。

生 生ワクチン: 次のワクチン接種は4週間後の同じ曜日から
不活化 不活化ワクチン: 次のワクチン接種は1週間後の同じ曜日から
同時接種: 医師が必要と認めた場合、同時に複数のワクチンを接種することもできます。詳しくは医師にご相談ください。

参考接種時期(数字は接種回数) 定期 定期接種: 基本的に無料。 任意 任意接種: 基本的に有料。自治体によって助成がある場合もあるので、確認を。

定期予防接種の対象年齢 任意予防接種の接種可能年齢





ワクチンで予防する子どもの病気

ワクチンで防げる病気があります。

接種時期をみて、早めに接種スケジュールを組みましょう。

監修：菌部 友良 先生 NPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会 理事長
(元 日本赤十字社医療センター 小児科部長)

★予防接種を受けるまえに★

受ける予防接種について、
わからないことは
医師に質問しましょう。

母子健康手帳は
持ちましたか？

予診票の記入は
済みましたか？
手元がない場合は
予約した医院へ確認を

子どもの体調について、
判断が難しいときには
医師に相談を。

○ワクチンの接種時期と接種回数(詳しくは医師にご相談ください)

B型肝炎 ワクチン

【B型肝炎】

B型肝炎ウイルスを持つ母親だけでなく、家族やお友達などからも感染します。肝炎になると、疲れやすくなり、黄疸が出ます。慢性化すると肝硬変や肝臓がんにつながります。

◎全3回：生後2ヵ月から、4週間隔で2回、更に20～24週を経過後に3回目。(母子感染予防対策以外)

ロタ ウイルス ワクチン

【ロタウイルス胃腸炎】

ロタウイルスは感染力が強いため、ほとんどの乳幼児が感染します。激しい嘔吐や下痢、発熱を伴い、脱水症状やけいれんを起こしたり、脳症や脳炎等を合併することもあります。

◎全3回または全2回：32週までに3回接種を完了するものと24週までに2回接種を完了するものの2種類があります。どちらのワクチンも初回は生後14週6日までに接種することが推奨され、接種間隔は4週以上です。

ヒブ (Hib) ワクチン

【ヒブ(ヘモフィルス・インフルエンザ菌b型)感染症】

鼻やのどにいるヒブが血液の中に入り、脳障害を起こす細菌性髄膜炎、呼吸困難になる喉頭蓋炎や細菌性肺炎などを起こします。死亡や重い後遺症が残ることもあります。

◎生後2ヵ月～6ヵ月に接種開始の場合、全4回：3週～8週間隔で3回。3回目の後7～13ヵ月の間に4回目。
※7ヵ月以降に接種開始の場合は、接種回数について医師にご相談を。(接種対象は2ヵ月～4歳)

小児用 肺炎球菌 ワクチン

【小児の肺炎球菌感染症】

鼻やのどにいる肺炎球菌が血液の中に入り、細菌性髄膜炎や細菌性肺炎などを起こし、死亡や重い後遺症が残ることもあります。重い中耳炎の原因にもなります。

◎生後2ヵ月～6ヵ月に接種開始の場合、全4回：4週以上の間隔で3回、3回目から60日以上あけて生後12～15ヵ月に4回目。
※7ヵ月以降に接種開始の場合は、接種回数について医師にご相談を。(接種対象は2ヵ月～9歳)

BCG ワクチン

【結核】

結核菌が、主に肺について肺結核を起こします。子どもでは脳を包む髄膜につく結核性髄膜炎や重い肺の病気(粟粒結核)で重症になったり、死亡したりします。

◎1回：生後12ヵ月(1歳)未満。生後5～8ヵ月未満に接種することが推奨されます。

【ジフテリア】

ジフテリア菌ののどについて、気道がふさがって息が出来なくなったり、菌の毒素で神経麻痺や心臓の筋肉の炎症を合併して死亡することもあります。

【破傷風】

破傷風菌が傷口から入って、菌の毒素で全身の筋肉がけいれんし、最終的には後ろに大きく弓なりになる姿勢になり、痛く苦しい症状を伴います。呼吸ができず、死亡することもあります。

【百日せき】

百日せき菌ののどなどにつき、かぜのような症状で始まり、せきが長く続くようになります。けいれんや肺炎を起こしたり、1歳未満、とくに生後6ヵ月以下では無呼吸で死亡したり脳症を起こすこともあります。

【ポリオ(急性灰白髄炎)】

ポリオウイルスによる感染症です。感染しても、ほとんどの場合は、発病しないか、発病しても多くはかぜ症状ですが、まれに手足に麻痺を起こし、運動障害が残ります。

◎全4回：生後3ヵ月から3～8週間隔で3回。3回目の後12～18ヵ月の間(6ヵ月後から接種可能)で4回目。原則として三種混合(DPT)ワクチンとポリオワクチン(生、不活化)をどちらも接種していない場合に接種します。

三種混合 (DPT) ワクチン

不活化 ポリオワクチン (単独IPV)

すでに三種混合(DPT)ワクチンを1回以上受けている場合は、原則として引き続き三種混合(DPT)ワクチンと不活化ポリオワクチン(単独IPV)で予防します。三種混合ワクチンとポリオワクチン(生、不活化)の接種が完了していない場合の接種スケジュールは、医師にご相談ください。

◎全4回：生後3ヵ月から3～8週間隔で3回。3回目の後12～18ヵ月の間(6ヵ月後から接種可能)で4回目。

麻疹・ 風しん混合 (MR) ワクチン

【麻疹(はしか)】

熱、鼻水、せきなどの症状のあと、3日～4日目から全身に発疹が出て、高熱が7日～10日続きます。気管支炎、肺炎、脳炎等を合併しやすく、死亡することもあります。

【風しん】

体に赤い発疹が出ます。熱は出ないこともあります。まれに脳炎や血小板減少性紫斑病という合併症が起こることがあります。妊娠初期の女性がかかると出生児への障害の原因となります。

◎全2回：生後12ヵ月(1歳)になったら、すぐ1回。小学校入学の前年に2回目。

おたふく かぜ ワクチン

【おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)】

耳下腺の腫れが目立ちますが、全身の炎症も起こします。無菌性髄膜炎、一生治らない難聴、脳炎の合併症があり、死亡や脳の後遺症が残ることもあります。

◎全2回：1歳から。1回目の3～5年後に2回目を受けるとしっかりと免疫がつきます。

みずぼうそう (水痘) ワクチン

【みずぼうそう(水痘)】

水痘帯状疱疹ウイルスの感染により、熱が出て、かゆみのある虫さされのような赤い発疹が出て、水ぶくれになり全身に広がります。7日程度でかさぶたになります。脳炎や肺炎、皮膚の重い細菌感染症などがあり、死亡や入院することもあります。

◎全2回：1歳から。1回目から3ヵ月の間隔をあけて2回目を受けると、しっかりと免疫がつきます。

日本脳炎 ワクチン

【日本脳炎】

感染した豚の血から、蚊を介して日本脳炎ウイルスに感染します。多くの場合は無症状ですが、脳炎を起こすと、死亡や後遺症が残ることが多くなります。

◎全4回：生後6ヵ月(通常は3歳)から、1週～4週間隔で2回。1年後に3回目。9歳～12歳に追加1回。

インフル エンザ ワクチン

【インフルエンザ】

インフルエンザウイルスによる感染症で、主に冬に流行します。高熱を伴い、気管支炎、肺炎などの呼吸器の病気や、脳炎・脳症を起こし重症化しやすい病気です。

◎毎年1～2回：生後6ヵ月から接種。10月～11月に、13歳未満は2～4週間隔で2回。

